

平成21年度 自己評価計画書

石川県立富来高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 中高一貫教育の実績を生かし、地域理解教育・国際理解教育の充実を図る。	中高一貫行事を厳選して、内容の充実を図る。	中高交流生徒会各学年	中高一貫行事をこれまで通り実施すると共に、本年度は2学年となったので、実施内容の工夫を図る必要がある。	【満足度指標】 中高一貫行事に参加し、楽しく取り組むことができた。	A とても楽しかった。 B ある程度楽しかった。 C あまり楽しくなかった。 D 楽しくなかった。	A + B が 70%以下の場合 は再検討	年間2回 生徒アンケート調査
	地域理解教育の充実を図る。	各学年教科教務進路	地域に根ざした高校として、本校の特色としたいが、生徒の関心はあまり高くない。	【満足度指標】 地域への理解度が高まった。	A とても高まった。 B ある程度高まった。 C あまり高まらなかった。 D 高まらなかった。	A + B が 70%以下の場合 は再検討	年間2回 生徒アンケート調査
	国際理解教育の充実を図る。	英語科総務	国際理解教育は本校の特色ある学校づくりの要であり、国際理解講演会等の充実をさらに図りたい。	【満足度指標】 国際理解教育は、内容が工夫されたものになっている。	A とても工夫されている。 B ある程度工夫されている。 C あまり工夫されていない。 D 工夫されていない。	A + B が 70%以下の場合 は再検討	前期1回 生徒アンケート調査
	英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。	英語科	英検を受験する生徒が増え、生徒の学習意欲も比較的高まってきた。	【成果指標】 国際コースに在籍する生徒は学年に応じた級（2年準2級）以上を取得する。	国際コース2年生準2級取得が A 5名以上である。 B 4名以上である。 C 3名以上である。 D 3名未満である。	C 以下の場合 再検討	英検合格者 数で判断
2 基本的生活習慣の確立により生徒の学力向上に努め、個に応じた進路実現を図る。	基本的生活習慣を確立させる。	生徒指導教務	挨拶などの生活習慣はできているが、遅刻やベル着など、時間を守ることが苦手な生徒がいる。	【成果指標】 時間を守る姿勢が身に付き、遅刻者が減少している。	前年度に比べ、遅刻者が A 30%減少した。 B 20%減少した。 C 10%減少した。 D ほとんど変わっていない。	C 以下の場合 再検討	教務課の遅 刻調査で判 断
		生徒指導	服装・頭髪など、身だしなみに対する意識がまだ低い生徒がいる。	【成果指標】 身だしなみ検査の不合格者が減少している。	前年度に比べ、不合格者が A 30%減少した。 B 20%減少した。 C 10%減少した。 D ほとんど変わっていない。	C 以下の場合 再検討	身だしなみ 検査で判断
		保健厚生	校舎内の清掃では、より丁寧な清掃を目指したい。	【満足度指標】 校舎の清掃がゆきとどいている。	A 隅々までゆきとどいている。 B ほぼゆきとどいている。 C 不十分な箇所がある。 D 徹底されていない。	C 以下の場合 再検討	年間2回 教師・生徒 アンケート調 査

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
2 基本的な生活習慣の確立により生徒の学力向上に努め、個に応じた進路実現を図る。	家庭学習を促すとともに、読書の習慣を身につけさせることで、学力の向上を目指す	全教科 教務	生徒は家庭学習の必要性は理解しているが、実際の家庭学習は充分ではない。	【成果指標】 家庭学習時間が確保されている。	平日の学習時間が平均 A 2時間以上である。 B 1時間以上である。 C 30分以上である。 D 30分未満である。	A + B が 70%以下の場合 は再検討	教務課の生活状況調査で判断	
		図書情報 国語科 担任	朝読書に図書館を利用するだけでなく、生涯にわたる習慣として読書を定着させるように取り組む。	【成果指標】 図書の貸出冊数や貸出人数が増加している。	一人平均 A 7冊以上利用している。 B 5冊以上利用している。 C 3冊以上利用している。 D 3冊未満である。	C以下の場合 再検討	図書情報課の貸出調査で判断	
	生徒の適正や希望に応じて適切な進路指導を行い、正しい進路の選択とその実現を図る。	進路指導 各学年	進路指導 各学年	進路選択に関する関心意欲が薄い。また、3年生でも進路を決定する時期が遅い。	【成果指標】 進路選択の関心意欲が高まっているかを、ライフステージとの関連から評価する。(進路指導課独自の評価表の作成)	A 大半の生徒が適切な進路を選択して、実現のために努力している。 B 大半の生徒が適切な進路を選択しているが、努力がやや足りない。 C 適切な進路選択を行っているが、実現のための努力が不足している生徒がかなり見られる。 D 適切な進路の選択と実現のための努力の両方ができていない生徒が多い。	進路指導課による評価で、 B以上を目指す。	進路指導課の独自評価表で判断
						【成果指標】 進路志望調査と実際の進路状況が一致している。		
			各学年	進路実現に対して認識の甘い生徒が多く、個人面談を十分に行う必要がある。	【努力指標】 個人面談を十分に行う。	個人面談の必要なときには A 必ず行った。 B ほぼ行った。 C あまり行えなかった。 D 行えなかった。	担任の評価で B以上を目指す。	担任の自己評価で判断

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 部活動の充実、特別教育活動の活性化等を通じ、地域との連携を図る。	部活動を充実させる。	生徒会各部活	単独でのチーム編成ができなくなり、他校との合同が余儀なくされている。その他、予算やスタッフ(専門的な指導者)の配置などに支障をきたしている。	【満足度指標】 部活動に積極的に参加し、充実した高校生活を送っている。	A 積極的に活動している。 B ある程度積極的に活動している。 C あまり積極的に活動していない。 D 休みがちであり、ほとんど活動していない。	A + B が 70%以下の場合 は再検討	年間2回 生徒アンケート調査
		生徒会各部活	顧問だけでは指導に限界があり、外部の指導者を招いて、広く技術や情報を伝えるなどの工夫が求められる。	【努力指標】 生徒が積極的に参加し、充実した高校生活を送れるように、指導・試合・発表面などが満足感のもてる活動になっている。	A 満足感のもてる活動にしている。 B ある程度満足感のもてる活動にしている。 C あまり満足感のもてる活動にはなっていない。 D 満足のもてる活動にはなっていない。	A + B が 70%以下の場合 は再検討	年間2回 教師アンケート調査
	特別教育活動を活性化させる。	生徒会	生徒数が少なくなり、行事内容を工夫する必要に迫られている。	【満足度指標】 積極的に参加できるように、充実した行事内容になっている。	A とても満足した。 B ある程度満足した。 C あまり満足できなかった。 D 満足できなかった。	A + B が 70%以下の場合 は再検討	年間2回 生徒アンケート調査
		保健厚生環境 ISO	生徒の環境保護に対する取組意識は高いが、ゴミの分別には不十分なところがある。	【成果指標】 ゴミの分別がしっかりとできている。	A 意識をもち、よく実行できている。 B 意識をもち、ある程度実行できている。 C 意識はあるが、不十分である。 D 意識がないので、十分ではない。	A + B が 70%以下の場合 は再検討	年間2回 生徒アンケート調査
	地域との連携を図る。	総務	P T A 役員を中心に、文化祭や花いっぱい運動、グッドマナーキャンペーンなどに参加してもらっている。	【成果指標】 地域の人々に連携の深まりが感じられている。	A とても深まった。 B ある程度深まった。 C あまり深まらなかった。 D 深まらなかった。	A + B が 70%以下の場合 は再検討	年間2回 保護者アンケート調査
			保護者への広報活動が、十分とはいえない。	【満足度指標】 保護者への広報活動が十分できている。	A 十分できている。 B ある程度できている。 C あまりできていない。 D 十分ではない。	A + B が 70%以下の場合 は再検討	年間2回 保護者アンケート調査